

福病監発第13号  
令和4年9月21日

福生病院企業団  
企業長 松山 健 様

福生病院企業団  
監査委員 渡 辺 晃

監査委員 下 野 義 子

令和3年度福生病院企業団病院事業決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、福生病院企業団病院事業決算  
について審査した結果、別紙のとおり意見を付します。

## 令和3年度福生病院企業団病院事業決算審査意見書

### 1 審査の対象

令和3年度福生病院企業団病院事業決算

### 2 審査の期日及び実施場所

令和4年8月24日（水） 公立福生病院2階大会議場

### 3 審査の着眼点

決算計数の正確性、財務諸表の適正性、決算内容の妥当性（経営活動が合理的かつ能率的に行われているか）等。

### 4 審査の主な実施内容

既の実施済の例月出納検査の結果も踏まえ事務長及び経営企画課職員による説明を聴取して審査を実施した。

### 5 審査の結果

審査に付された決算、証書類、事業報告書、その他の書類は、いずれも関係法令に基づき作成されており、適正に表示しているものと認められた。

また、予算の執行は、おおむね適正に執行されているものと認められた。

### 6 審査意見

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）が依然猛威を振るう中、人工呼吸器の追加導入、看護補助者を採用し看護部門職員の負担軽減を図るなど、病院運営を確保する一方で、構成市町の要請によるワクチン集団接種への医師派遣など、地域医療にも可能なかぎり貢献した様子が窺われた。決算については、令和2年度に引き続きコロナ関連の補助金等が多額に計上されている。前年もそうであったが会計処理の影響により、今後数年間は年度間の数値の増減や指標等を単純に比較することが適さない状況となろう。

業務実績については、入院患者数及び病床稼働率が4年連続で前年度を下回った。収益面では入院患者の一人一日平均単価が上昇し医業収益が増加したことに加え、コロナに係る補助金の交付及び構成市町からの負担金により医業外収益も増加したことで、収益の総額は増加した。費用面では、ガス単価の上昇に伴い光熱水費が増加したものの、職員数の減少等により給与費が減少し、費用の総額は減少した。結果として24億1,727万7,502円の純利益が生じた。主な要因は、コロナに係る補助金収入によるものである。

資金収支では、投資及び財務活動キャッシュ・フローは低下したが、収入の根幹である業務活動は当年度純利益が計上されたことから増加した。これにより年度末の資金残高は32億3,898万9,826円となり、対前年比21億481万8,213円の増加となった。

なお、令和4年3月29日に公布された地方公営企業法施行規則等の一部を改正する省令（令和4年総務省第21号）により、決算附属書類である事業報告書に、経営の実態を端的に示す経営指標に関する報告を行うこととなっていたが、特に指摘事項はなかった。

コロナ収束の出口は未だに見えないが、今後も職場環境を整備し適正な人材確保に励み、地域住民の医療の受け皿となるために関係者のなお一層の努力を期待する。また、新病棟供用開始から10年以上が経過し、施設設備の老朽化も散見されるようである。地域住民の健康維持のため、病院事業を継続させるのに建屋修繕等の対策は優先的に取り組むべき事項となるであろう。前向きな検討を開始することを要望する。

## 7 審査の概要

### (1) 業務実績

年間延べ患者数は入院が減少し、外来が増加した。患者一人一日当たりの診療収入単価は入院が増額し、外来が減額した。救急診療患者数はコロナ患者の救急搬送をはじめとして増加した。

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減比率
年間延患者数				
入院	63,575人	65,917人	△2,342人	△3.6%
外来	165,968人	153,624人	12,344人	8.0%
患者一人一日当たりの診療収入単価				
入院	62,520円	56,205円	6,315円	11.2%
外来	14,011円	14,084円	△73円	△0.5%
救急診療患者数	13,338人	9,427人	3,911人	41.5%

### (2) 収益的収支（税抜き）

病院事業収益では、医業収益が増額となった。入院患者の一人一日平均単価が上昇し医業収益が増加したことに加え、コロナに係る補助金の交付及び構成市町からの負担金により医業外収益も増加し、収益の総額は増加した。医業費用はガス単価の上昇に伴う経費の光熱水費が増加したものの、職員数の減少等により給与費が減少し、費用の総額は減少した。

その結果、当年度は24億1,727万7,502円の純利益を計上した。これは医業外収益として感染症に係る補助金の交付を受けたことが大きく影響している。

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減比率
病院事業収益	11,279,928,839円	8,977,958,541円	2,301,970,298円	25.6%
医業収益	6,477,501,295円	6,036,670,719円	440,830,576円	7.3%
医業外収益	4,799,522,527円	2,937,607,621円	1,861,914,906円	63.4%
特別利益	2,905,017円	3,680,201円	△775,184円	△21.1%
病院事業費用	8,862,651,337円	8,808,600,065円	54,051,272円	0.61%
企業団管理費	29,896,695円	31,343,446円	△1,446,751円	△4.6%
医業費用	8,353,800,423円	8,321,404,986円	32,395,437円	0.4%
医業外費用	473,804,916円	455,851,633円	17,953,283円	3.9%
特別損失	5,149,303円	0円	5,149,303円	皆増
当期純利益	2,417,277,502円	169,358,476円	2,247,919,026円	1327.3%

### (3) 資本的収支（税込み）

病院建設事業債の償還、医療機器等を医療機器等更新計画に基づき更新した結果、資本的収支はマイナス3億486万5,689円となった。

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減比率
資本的収入	683,521,000円	555,988,500円	127,532,500円	22.9%
企業債	260,612,000円	70,400,000円	19,021,200円	270.2%
他会計補助金	163,874,000円	160,588,000円	3,286,000円	2.0%
都補助金	86,368,000円	155,472,000円	△69,104,000円	△44.4%
他会計負担金	172,415,000円	169,019,000円	3,396,000円	2.0%
その他投資	252,000円	509,500円	△257,500円	△50.5%
資本的支出	988,386,689円	984,905,286円	3,481,403円	0.4%
建設改良費	315,677,065円	191,528,183円	124,148,882円	64.8%
企業債償還金	672,508,124円	793,230,103円	△120,721,979円	△15.2%
その他投資返還金	201,500円	147,000円	54,500円	37.1%
翌年度繰越額に係る 財源充当額	0円	1,538,000円	△1,538,000円	皆減
収支差引	△304,865,689円	△430,454,786円	125,589,097円	-

### (4) キャッシュ・フロー

年度末の資金残高は、コロナに係る補助金収入が増加に伴い、当年度純利益が24億1,727万7,502円計上されたことにより対前年度比21億481万8,213円の増額となった。

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減比率
業務活動キャッシュ・フロー	2,380,985,987円	590,962,222円	1,790,023,765円	302.9%
投資活動キャッシュ・フロー	△286,928,650円	△173,754,030円	△113,174,620円	-
財務活動キャッシュ・フロー	10,760,876円	△237,751,103円	248,511,979円	-
資金増減額	2,104,818,213円	179,457,089円	1,925,361,124円	1072.9%
年度期首資金残高	1,134,171,613円	954,714,524円	179,457,089円	18.8%
年度末資金残高	3,238,989,826円	1,134,171,613円	2,104,818,213円	185.6%